

八重山歴史研究会報

八重山歴史研究会

現場研修実施！

去る九月一四日（火曜日）、八重山歴史研究会の現場研修会を実施しました。ちょうど、二万年前の人骨発見で話題となった白保竿根田原洞穴の発掘調査中ということもあり、発掘現場見学を中心としたスケジュールを組みました。

午後一時に新空港建設現場の展望台で集合し、最初に展望台下のプレハブで沖縄県立博物館・美術館の藤田祐樹さんから洞穴周辺の状況などについて説明を受けました。その後、皆で車を乗り合わせて中へ。ちなみに、現場の見学には、安全対策のためのヘルメットとジャケット着用が義務化されています。

ちょうど私たちが見学した日



第 62 号

編集・発行 八重山歴史研究会
発行日 二〇一〇年一〇月一八日
事務局・会計 島袋（八重山博物館 〇八二一四七二二）
題字 坡名城泰雄氏

は、層の発掘が始まっており、暑い中、作業員が一生懸命発掘していました。まだ発掘が始まって間もないこともあり、出土遺物は少ない状況でしたが、それでも現地で層や人骨の出土状況の説明を受けることができました。

さて、白保竿根田原洞穴の問題点は、いわゆる旧石器時代に属する年代を示す人骨は出土しているものの、石器などの人工遺物が出土していないことが挙げられます。このことから、元沖縄県立埋蔵文化財センター所長の安里嗣淳氏は、沖縄の旧石器の存在そのものに疑問を投げかけています。今回の調査は、その疑問にも何らかの答えを出すことが一つの目標となっています。





一〇月一四日、一五日付けの八重山毎日新聞では、洞穴調査について、「重要な遺跡」と位置づけた反面、今回の調査日程では、更新世、いわゆる旧石器に該当する層の調査が見送られるのでは、という記事が紹介されました。それを、下田原式土器など、予想以上の遺物が出土したため、としています。

調査日程は一〇月いっぱいありますが、この期間でどこまで解明できるかが焦点となります。八重山歴史研究会としても、今後の動きを見守りたいものです。

また、同日は竿根田原洞穴を出てから、次に、轟川上流のシカ化石出土地点を確認しました。平地にぽこっと頭を出した小さな石灰岩の山がその出土地である、と石垣久雄会長から説明を受け、皆でその場所を確認しました。

その後は、北木山風水記の記録にある場所を確認するため、各ポイントで停車しながら見学しました。最後は、バンナ公園の北口から入り、ぐるりと東側を廻って水元の神や周辺地形を見ながら移動し、南口駐車場で停車してそれぞれ意見を交換しました。特に抱護の関係では、満勢山の向きや形についても確認しました。あわせて、正木会員からは、子どもの頃に薪取りをした経験から、山の名前やその難易度に関してもお話がありました。

また九月二五日（土曜日）には石垣市文化協会と合同で、安良村跡の見学も実施しています。クバ御嶽周辺の新しい遺構を確認できたようです。今後も機会を見て、このような現地研修を実施していこうと思います。会員の皆さまからのご要望もお寄せください。

